【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第１部門第２区分
【発行日】平成31年3月7日(2019.3.7)

【公開番号】特開2016-147049(P2016-147049A)
【公開日】平成28年8月18日(2016.8.18)
【年通号数】公開・登録公報2016-049
【出願番号】特願2016-10829(P2016-10829)
【国際特許分類】
Ａ６１Ｂ　17/02　(2006.01)
Ａ６１Ｂ　17/66　(2006.01)
【ＦＩ】
Ａ６１Ｂ　17/02
Ａ６１Ｂ　17/66

【手続補正書】
【提出日】平成31年1月23日(2019.1.23)
【手続補正１】
【補正対象書類名】特許請求の範囲
【補正対象項目名】全文
【補正方法】変更
【補正の内容】
【特許請求の範囲】
【請求項１】
半径方向に柔軟に拡大可能なパイプ状シースを備えたステントディストラクタであって、
前記シースが、周方向において、半径方向の可撓性が異なる少なくとも２つの部分に分割されており、
前記２つの部分が、単一材料部片で互いに接続されている、
ことを特徴とするステントディストラクタ。
【請求項２】
前記シースが、前記周方向において４つの部分に分割されており、前記部分のうちの２つが、補強部として基本的に同じ可撓性で具現化され、他の２つが、拡大部として基本的に同じ可撓性で具現化され、その目的で、前記２つの補強部が、少なくとも前記周方向において軸方向においても、前記２つの拡大部より剛性が高い、ことを特徴とする請求項１に記載のステントディストラクタ。
【請求項３】
同じ可撓性の前記２つの部分が、それぞれ、互いに正反対に対向して配置されている、ことを特徴とする請求項２に記載のステントディストラクタ。
【請求項４】
前記補強部が、追加の別個の構成要素のための支持体および／又は固定構造により具現化され又はそれが備えられている、ことを特徴とする請求項２又は３に記載のステントディストラクタ。
【請求項５】
前記支持体および／又は固定構造が、弓状又はアイレット状ラグ、又は舌状部として具現化され、前記ラグ又は前記舌状部は、さらに、前記ステントディストラクタの前記軸方向に延びており、前記ステントシースとの組み合わせにおける各ケースで、軸方向に開かれる切れ目を定義する、ことを特徴とする請求項４に記載のステントディストラクタ。
【請求項６】
好ましくは２部品の封止薄片が追加の構成要素として設けられ、それが、前記固定構造

としてのラグに取り付けられるか又は押し込まれ、基本的に緩い取り付けにより前記ステントシースの外側を覆っている、ことを特徴とする請求項５に記載のステントディストラクタ。

【請求項７】

引張ロープの形態で紐通し機構が追加の構成要素として設けられ、それは、前記ステントディストラクタが、前記引張ロープの有効長さを短くするときに、半径方向に圧縮されるように、前記アイレット状ラグに通されている、ことを特徴とする請求項５又は６に記載のステントディストラクタ。

【請求項８】

釘又はディストラクションスクリューの形態で２つの骨係留要素が追加の構成要素として設けられ、それらは、外側又は内側において前記ステントディストラクタの前記ステントシースに対して並列するように、互いに正反対に対向して前記アイレット状ラグへ軸方向に挿入されている、ことを特徴とする請求項５～７のいずれか一項に記載のステントディストラクタ。

【請求項９】

前記拡大部が、それぞれ、軸方向に間隔があけられた弾性状に伸張する複数の要素から構成され、当該要素が、それぞれ、前記周方向に延びているアコーディオンワイヤにより具現化されている、ことを特徴とする請求項２～８のいずれか一項に記載のステントディストラクタ。

【請求項１０】

前記軸方向において、それぞれに内部補強部および拡大部が取り付けられている複数のセグメントに分割されており、

前記セグメントが、相対的に剛性が高い軸方向接続要素によって互いに接続されており、

前記軸方向接続要素が、さらに、セグメント毎に長さを短くするための所定の破断点を構成している、ことを特徴とする請求項１～９のいずれか一項に記載のステントディストラクタ。